

3 アンケート結果の考察と課題

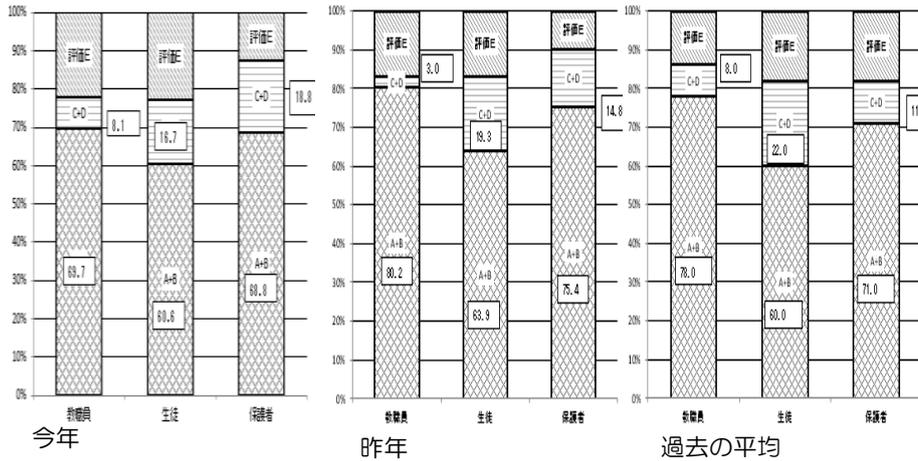
*グラフの見方(下から)



ID・カテゴリーと質問内容 学校全体の集計グラフ	今回、過去のデータ等と比較した分析結果																
<p>1 学校 学校に行くのが楽しいかどうか。</p> <table border="1"> <caption>学校に行くのが楽しいかどうか (学校全体の集計)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>今年</th> <th>昨年</th> <th>過去の平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>88.9%</td> <td>83.9%</td> <td>85.3%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>15.2%</td> <td>22.9%</td> <td>7.4%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>12.3%</td> <td>7.4%</td> <td>18.1%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	今年	昨年	過去の平均	教職員	88.9%	83.9%	85.3%	生徒	15.2%	22.9%	7.4%	保護者	12.3%	7.4%	18.1%	<p>【全校】生徒の肯定的評価が昨年から13%、過去の平均からも4%増え、否定的評価がともに減っています。</p> <p>【学部ごと】生徒の肯定的評価は中学部が100%、高等部は昨年から5%、専修部は15%増えています。保護者の肯定的評価は幼小学部、中学部で100%、高等部で85%あり高い評価を維持しています。専修部は昨年と同じ65%でした。</p>
対象	今年	昨年	過去の平均														
教職員	88.9%	83.9%	85.3%														
生徒	15.2%	22.9%	7.4%														
保護者	12.3%	7.4%	18.1%														
<p>【課題・反省等】今後とも学校全体として楽しく学べる環境を整えたいと思います。</p>																	
<p>2 保護者との連携 学校による情報の周知徹底</p> <table border="1"> <caption>学校による情報の周知徹底 (学校全体の集計)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>今年</th> <th>昨年</th> <th>過去の平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>84.4%</td> <td>84.2%</td> <td>87.0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>3.3%</td> <td>5.0%</td> <td>7.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>10.8%</td> <td>7.6%</td> <td>11.0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	今年	昨年	過去の平均	教職員	84.4%	84.2%	87.0%	生徒	3.3%	5.0%	7.0%	保護者	10.8%	7.6%	11.0%	<p>【全校】教職員の肯定的評価は今年と昨年、過去の平均と同じ水準で80%を超えています。保護者の肯定的評価も過去の平均、昨年より上がり、教職員と同じ水準になりました。</p> <p>【学部ごと】保護者の肯定的評価は中学部は100%、幼小学部は95%、専修部は76%と昨年より15%増えました。高等部は85%で昨年と同じでした。</p>
対象	今年	昨年	過去の平均														
教職員	84.4%	84.2%	87.0%														
生徒	3.3%	5.0%	7.0%														
保護者	10.8%	7.6%	11.0%														
<p>【課題・反省等】この結果に満足することなく、今後とも、すべての保護者に情報が行き渡るよう取組みを進めていきます。</p>																	
<p>3 保護者との連携 保護者の学校行事の参加</p> <table border="1"> <caption>保護者の学校行事の参加 (学校全体の集計)</caption> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>今年</th> <th>昨年</th> <th>過去の平均</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>21.8%</td> <td>18.7%</td> <td>18.0%</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>78.2%</td> <td>83.3%</td> <td>80.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>81.0%</td> <td>84.0%</td> <td>84.0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	今年	昨年	過去の平均	教職員	21.8%	18.7%	18.0%	生徒	78.2%	83.3%	80.0%	保護者	81.0%	84.0%	84.0%	<p>【全校】今年も学校行事等に参加したことがある保護者は78%と昨年とほぼ同じ結果でした。過去の平均より14%ほど高い水準にあります。</p> <p>【学部ごと】幼小学部は100%です。中学部、高等部はそれぞれ80%、94%です。昨年増えた専修部は13%減り47%でした。</p>
対象	今年	昨年	過去の平均														
教職員	21.8%	18.7%	18.0%														
生徒	78.2%	83.3%	80.0%														
保護者	81.0%	84.0%	84.0%														
<p>【課題・反省等】学校としてはさらに、行事に参加しやすい工夫を進めていきます。</p>																	

4 進路

一人ひとりに応じた進路指導



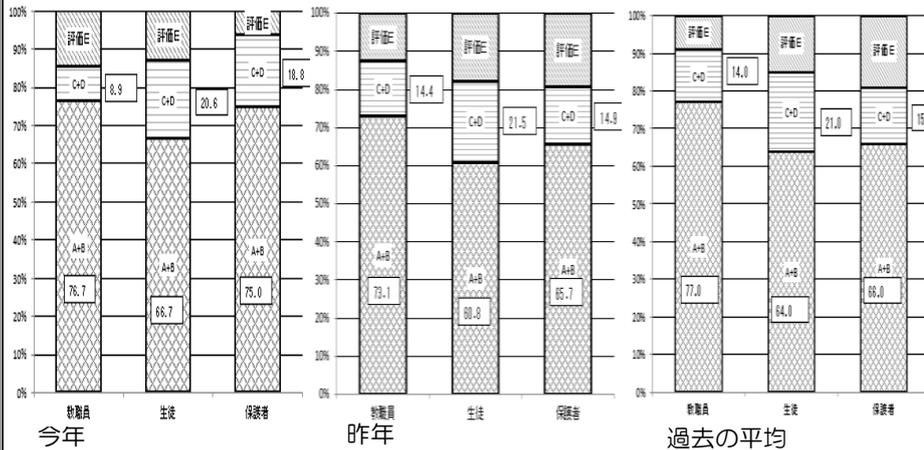
【全校】今年の結果は、生徒、保護者の肯定的評価は昨年、過去の平均とほぼ同じです。職員の肯定的評価は昨年より 10%減りました。

【学部ごと】専修部学生の肯定的評価が今年も 7%増え、74%になりました。否定的評価は昨年同様 23%あります。高等部の肯定的評価は 12%減りました。

【課題・反省等】教職員の肯定的評価が減った結果、教職員と生徒のギャップが昨年より小さくなりました。三者の肯定的評価を上げてギャップを小さくできるよう、担任、分掌が連携を密にして情報提供を行うなど、きめ細かな進路指導の取り組みを行っていきます。

5 生徒・学生指導

悩みを相談できるシステムの有無や相談できる教職員の有無



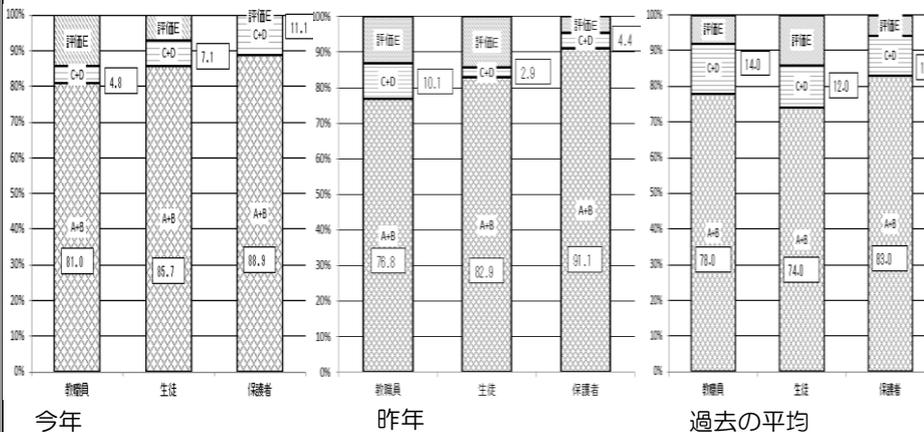
【全校】今年の結果は、昨年、過去の平均とほぼ同じ結果を示しており、生徒の肯定的評価は昨年より 6%増えて約 67%になりました。

【学部ごと】専修部学生の肯定的評価が昨年より 13%増え 72%になりました。高等部は肯定的評価が 19%減り、否定的評価が 14%増えました。中学部は肯定的評価が 100%です。

【課題・反省等】毎年少しずつ肯定的評価が増え、今年は約 67%の生徒が相談できる先生がいると答えています。今後も肯定的評価を増やせるよう、気軽に生徒が教職員とコミュニケーションをとったり、相談できたりする雰囲気を作るとともに、校内の相談システムの周知徹底にも努めます。

6 児童・生徒理解（幼小・中・高）

教職員の幼児、児童、生徒の障がいについての理解



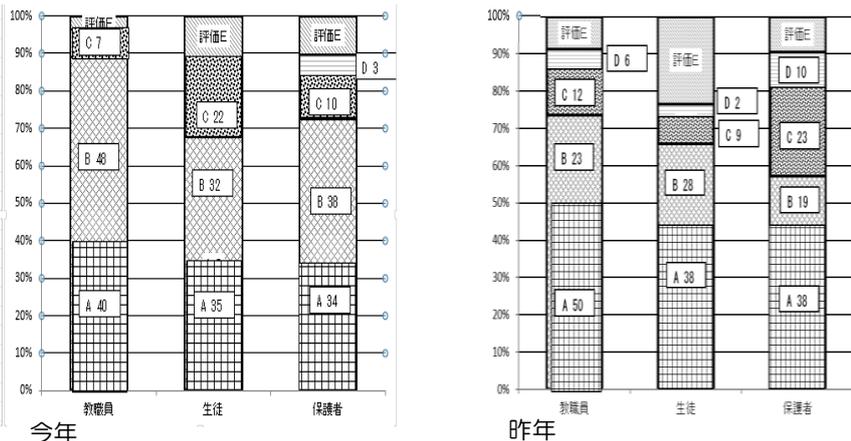
【全校】今年の結果は生徒、保護者の肯定的評価がそれぞれ 86%、89%と高い評価を受けています。

【学部ごと】肯定的評価は中学部の生徒、保護者は 100%、幼小小学部の生徒は 100%、保護者は 94%です。高等部の生徒は、70%と昨年と変わりませんでした。保護者は 17%減り 77%、否定的評価は 17%増え 23%です。

【課題・反省等】生徒、保護者の肯定的評価が過去の平均から見ても、徐々に上がってきていることがわかります。教職員の否定的評価も減少傾向です。この結果に満足することなく、研修会や事例検討会などさまざまな機会を通して、一人ひとりの在校生の障がいの状況について理解を深めていくと同時に、さらに各部の連携を密にして、幼児、児童、生徒、学生の情報の共有化を図っていきます。

7 児童・生徒理解（専修部）

学生の障がいについて理解している教職員の割合



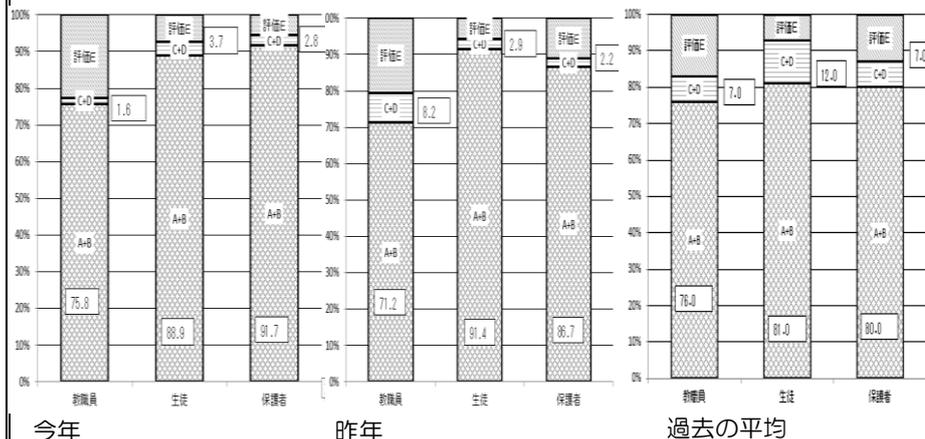
専修部単独で学生の障がいを理解している教職員の割合を聞く質問です。

- A：とても多い（75%以上）
- B：半分以上はいる（50%以上～75%未満）
- C：半分以下である（25%以上～50%未満）
- D：とても少ない（25%未満）
- E：わからない

【課題・反省等】この質問はA評価をいかに増やしていくかが課題となりますが、今年と昨年のA評価を比較すると教職員は10%減、学生、保護者とも微減です。一方、学生のC評価は13%増の22%です。今後いっそう、研修会や日々の取り組みを通して学生一人ひとりの障がいについて理解を深め、それぞれが実感できるように、情報や支援の方法について共有化を図っていきます。

8 授業（幼小・中・高）

わかりやすい授業の実施



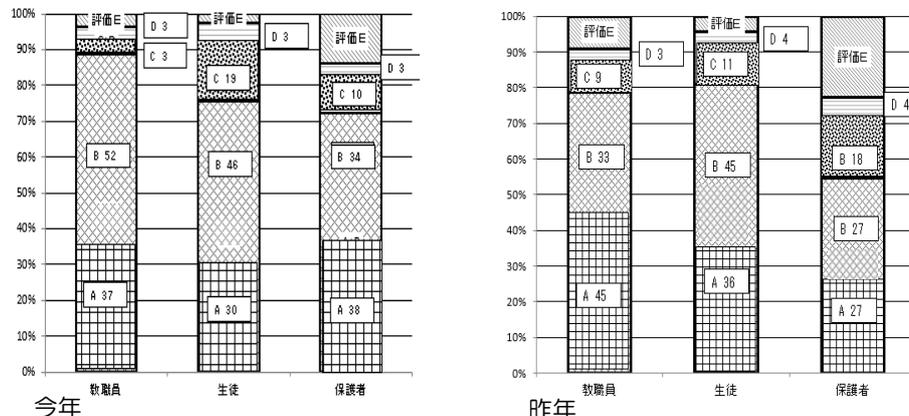
【全校】今年の結果は三者とも昨年の結果とほぼ同じで生徒、保護者の肯定的評価は90%と高い評価を受けています。教職員の否定的評価も6%ほど減りました。過去の平均と比較しても生徒、保護者とも増えています。

【学部ごと】
 幼小学部、中学部の保護者の肯定的評価は「わからない」を除けばほぼ100%です。高等部の否定的評価は生徒、保護者とも8%です。

【課題・反省等】この結果に満足することなく、今後とも学習会や研修など様々な機会を通して、教職員のスキルアップを図っていきます。

9 授業（専修部）

授業内容を工夫し、わかりやすい授業に努めている教職員の割合



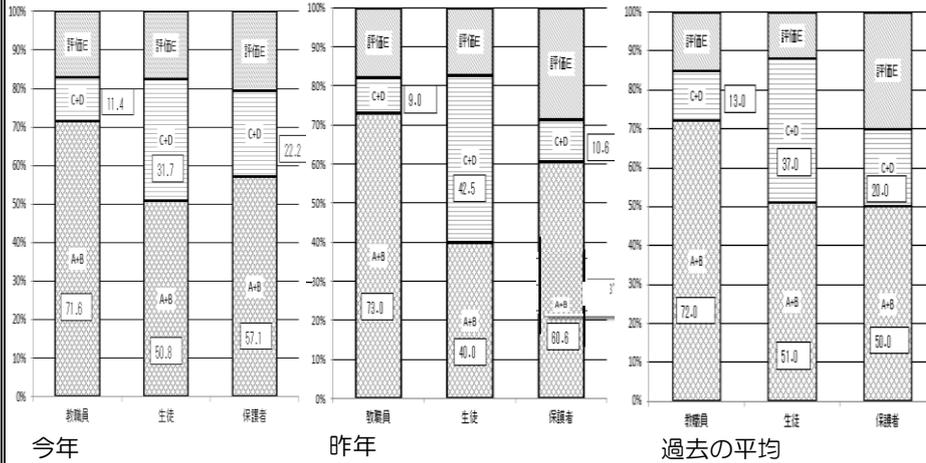
専修部単独で授業内容を工夫し、わかりやすい授業に努めている教職員の割合を聞く質問です。

- A：とても多い（75%以上）
- B：半分以上はいる（50%以上～75%未満）
- C：半分以下である（25%以上～50%未満）
- D：とても少ない（25%未満）
- E：わからない

【課題・反省等】この質問もAの評価をいかに増やしていくかが課題となりますが、今年と昨年のAの評価と比較すると教職員37%で8%減、学生30%で6%減、保護者38%で8%増と、教職員、学生とも微減です。Aの評価を増やすことができるよう今後とも学習会や研修など様々な機会を通して、教職員の授業力向上に努めてまいります。

10 授業

ICTを活用した教育の取り組み



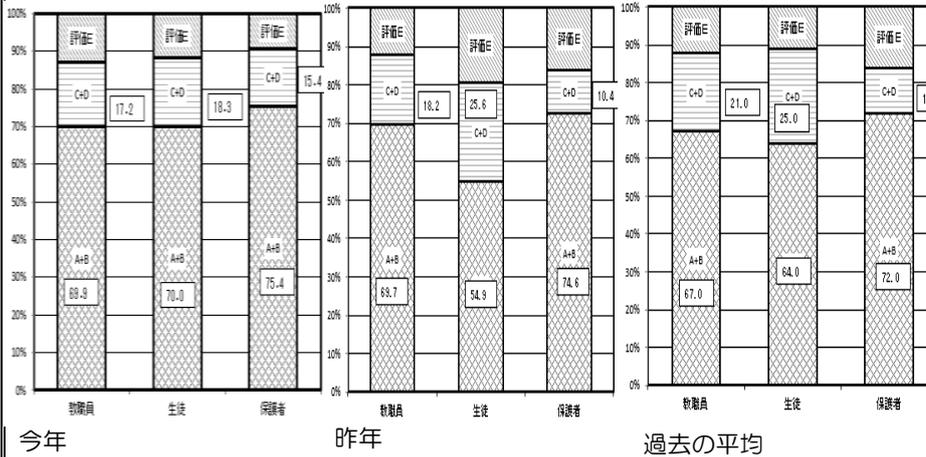
【全校】今年は過去の平均とほぼ同じ結果を示しています。昨年と比較すると生徒の肯定的評価が10%増え、否定的評価が10%減りました。教職員、保護者の肯定的評価は微減です。

【学部ごと】中学部、高等部生徒は「わからない」を除くと肯定的評価はほぼ100%です。専修部学生の肯定的評価は昨年より20%増えて43%、否定的評価が17%減って46%でした。

【課題・反省等】高等部ではICT機器を授業に取り入れる取組みが定着しています。専修部でも徐々にそうした取組みが行われるようになり、評価が改善されたものと考えます。教職員の研修や機器の整備を行い、ICTを視覚障がい教育に活用できるようにしていきます。

11 人権

幼児、児童、生徒、学生に対する積極的な人権教育の推進



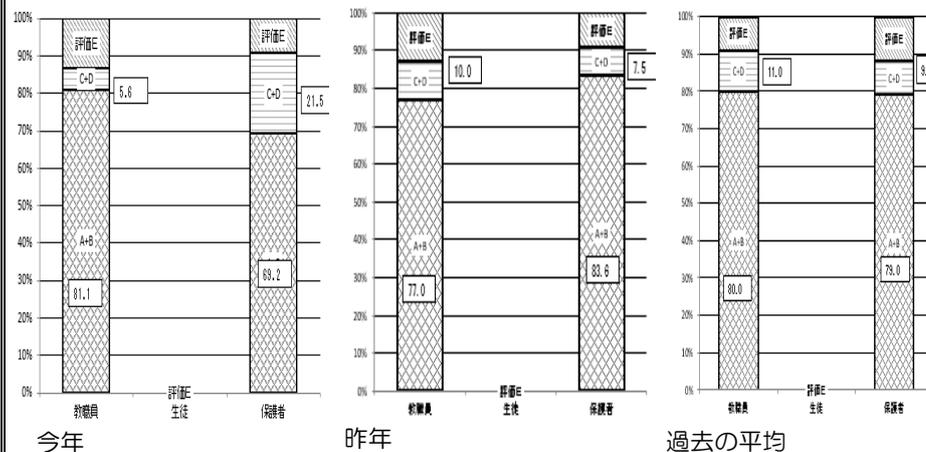
【全校】昨年と比較すると職員、保護者はほぼ同じ結果ですが、生徒の肯定的評価は15%増えました。

【学部ごと】昨年と比較すると専修部学生の肯定的評価が25%増えて64%となり、否定的評価は10%減りました。高等部生徒の肯定的評価は9%減り否定的評価が5%増えました。

【課題・反省等】各部で人権について考える機会を設け、職員についても全校、各部で参加体験型の研修会を行っています。今後ともこうした取組みを充実させていきます。

12 人権

日常の教育活動における幼児、児童、生徒の人権の尊重



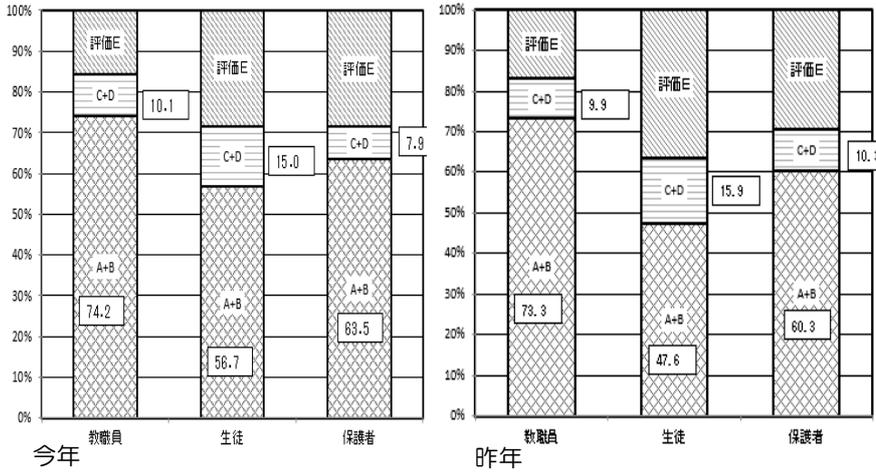
【全校】昨年と比較すると保護者の肯定的評価が14%減り、否定的評価が14%増えました。教職員の肯定的評価は4%増え、否定的評価も4%減っています。

【学部ごと】昨年と比較すると高等部、専修部保護者の肯定的評価は減ってそれぞれ62%、55%、否定的評価は増えてそれぞれ31%、35%あります。教職員の否定的評価は、幼小学部が14%ありますが、他の学部はほぼありません。

【課題・反省等】保護者の肯定的評価が約70%あるとはいえ、昨年より肯定的評価は減り、否定的評価は増え、教職員との間にギャップが生まれました。さらに研修を充実させ、安全・安心に配慮された学校づくりをすすめていきます。

13 人権

いじめなどの行為に対して適切に対応しているか



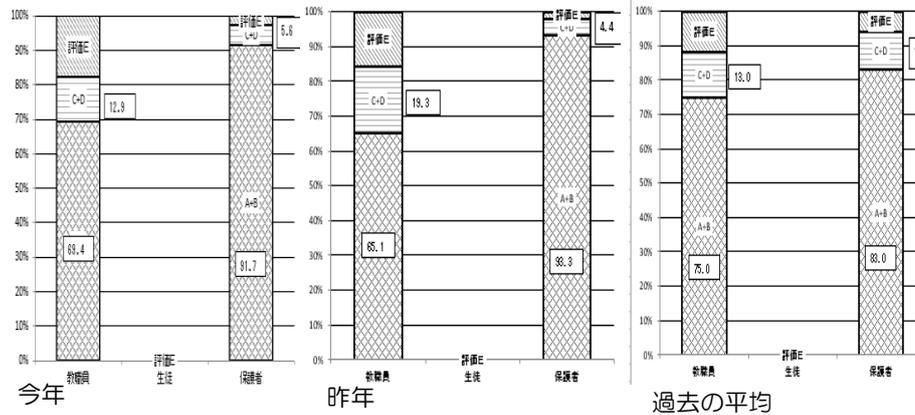
【全校】昨年から追加された質問です。教職員にはいじめなどの行為があれば適切に対応できているか、生徒、保護者には適切に対応してくれるかを質問しました。生徒、保護者の肯定的評価はそれぞれ57%、64%、否定的評価は15%、8%で生徒の肯定的評価が9%増えました。

【学部ごと】今年もいずれの学部の生徒、保護者もわからないが多かったものの、否定的評価は少ないです。ただ、高等部は生徒、保護者にそれぞれ25%、17%の否定的評価がありました。

【課題・反省等】教職員と生徒、保護者の肯定的評価にギャップがあるので、それを縮めることができるよう日々取り組んでいく必要があると感じます。

14 教育課程

幼児、児童、生徒の実態に応じた教育課程の編成



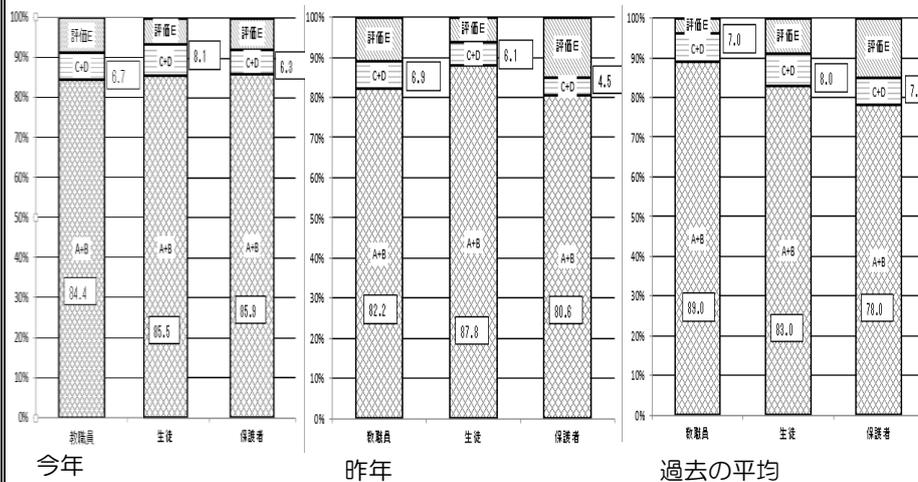
【全校】今年の保護者の肯定的評価も昨年に引き続き90%を超える92%と高い評価を得ています。教職員の肯定的評価は4%増え、否定的評価は7%減りました。

【学部ごと】教職員の否定的評価が幼小学部は36%、中学部は8%あります。高等部はありませんでした。

【課題・反省等】毎年、幼児、児童、生徒の実態が変わる中、各部とも日頃の教育活動について意見を出し合い、できるかぎり、幼児、児童、生徒の一人ひとりの障がいの実態に配慮した教育課程を検討していきます。

15 学校安全

地震や火災など非常時の対応方法が適切に教えられているか



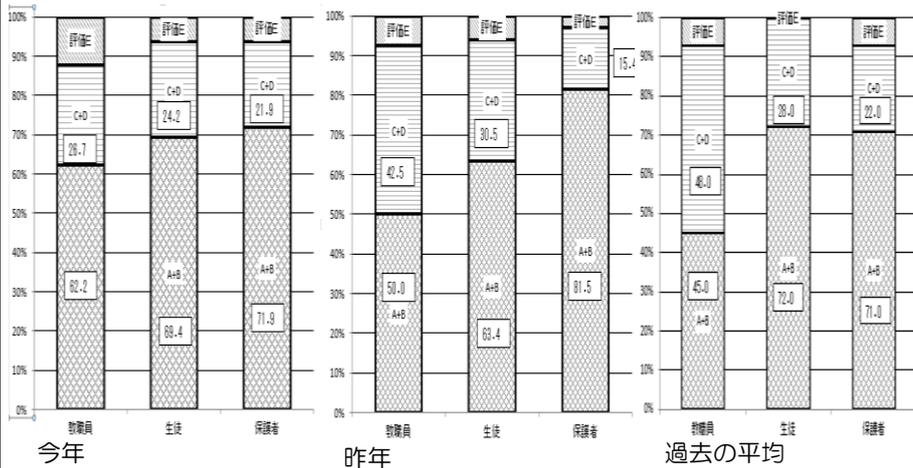
【全校】昨年同様、今年も教職員、生徒、保護者とも肯定的評価は80%を超え、保護者の肯定的評価は5%増え86%になるなど高い評価を得ています。

【学部ごと】小学部、中学部の生徒の肯定的評価は100%、高等部の生徒に15%の否定的評価があります。専修部の学生の肯定的評価が昨年同様79%、否定的評価は2%減って9%でした。

【課題・反省等】学校では定期的に火災、地震、不審者に対する避難訓練を実施しており、またその際、起こり得るさまざまな状況を想定して、実際の緊急事態に対応できるよう工夫を加えて取り組んでいます。個々の訓練を検証し、実際に起きたときに教職員、生徒とも適切な行動がとれるようにしていきます。

16 学校安全

校舎は視覚障がい者にとって安全で使いやすいか



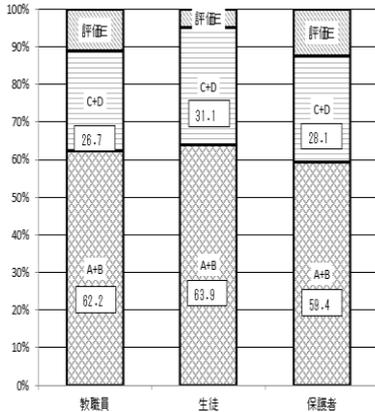
【全校】昨年と比較すると教職員、生徒の肯定的評価がそれぞれ12%、6%増えており、否定的評価が16%、6%減りました。保護者の肯定的評価は10%減り否定的評価は6%増えました。

【学部ごと】昨年と比較すると教職員の否定的評価は幼小学部が12%減って21%、中学部が12%減って8%、高等部が16%減って24%、専修部が21%減って41%と各部とも減少しています。専修部学生の否定的評価も14%減って29%です。

【課題・反省等】年を追うごとに、肯定的評価が増えてきています。根本的な改良は難しいですが、改善できるところは改善していき結果がでていいると思われます。今後とも視覚障がい者の立場に立って、校舎を検証し、生徒、保護者、教職員をはじめ本校に関わるすべての方の安全に努めていきます。

17 学校安全

通学路は視覚障がい者にとって安全に整備されているか



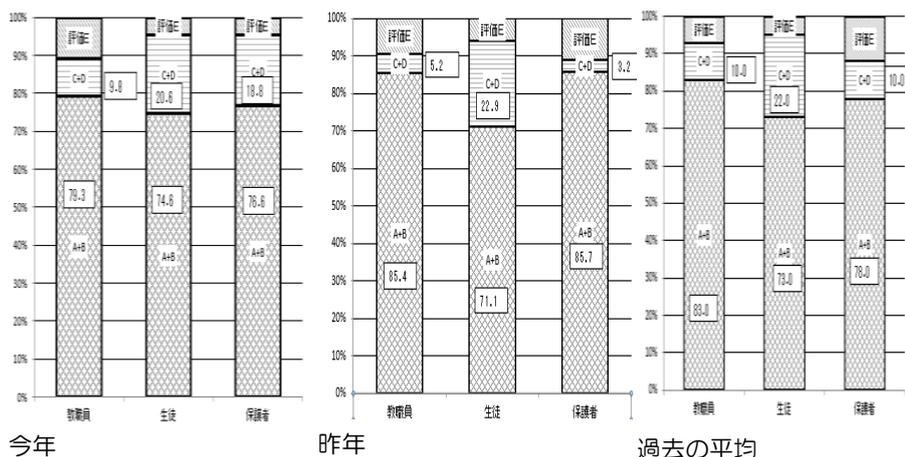
【全校】今年はずじめて実施した質問です。学校の南側にスーパーが開店し、歩行環境が以前と大きく変わったことから実施しました。三者とも肯定的評価は60%前後、否定的評価は30%前後あります。

【学部ごと】各学部生徒の否定的評価は、幼小学部14%、中学部14%、高等部54%、専修部29%です。教職員の否定的評価は幼小学部21%、中学部は8%、高等部24%、専修部37%でした。

【課題・反省等】7月に学校の南側にスーパーが開店しました。また、スーパーの西側ではマンションの建築工事も始まっています。スーパーができたことで正門前を自転車が多く通行するようになりました。そのため、受付員が配置されていない下校時刻を中心に、正門前に警備員を配置しています。マンション建設工事については業者から工事の工程表を提示いただくともに、安全面についての配慮を強くお願いしています。今後とも、学校の南側の関連業者のみならず、大阪府教育庁支援教育課、大阪市の道路管理局とも密な連携を図り、通学路の安全確保を図って参ります。

18 学校行事

スポーツフェスティバルや文化祭など学校行事が楽しいかどうか
専修部は学科の行事が有意義かどうか



【全校】昨年、過去の平均と比較すると教職員、生徒はほぼ同じ結果を示していますが、保護者の否定的評価が増えています。

【学部ごと】中学部は三者とも肯定的評価がほぼ100%です。幼小学部の教職員、高等部の教職員、生徒に否定的評価がそれぞれ14%、6%、29%あります。専修部は教職員の肯定的評価は84%。学生は昨年から10%増えて65%。保護者は昨年と変わらず62%でしたが、否定的評価が昨年から20%増えて31%になりました。

【課題・反省等】スポーツフェスティバルや文化祭をはじめとする学校行事で、これからも生徒が主体的に取り組み、一人一人が充実感を持てるような行事を企画、運営したいと思います。専修部についてもさらに、学生の意見、感想を各学科の行事や自主的に参加しているスポーツフェスティバルや文化祭の企画、運営に活かしていきます。

4 おわりに

今回の学校教育自己診断で明らかになった個々の課題については、次年度以降も各学部、各分掌で改善に向けた取組みを続けてまいります。